

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：コラコラ（Coral Collabo）

活動地域：八重山諸島

活動におけるテーマ

『島全体がつながりあう“巡る島”』

1 地域のありたい未来実現のための これまでの歩み①

R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			全国キックオフミーティング					沖縄ブロック中間共有会				全国成果共有会
実施したこと			コラコラ総会 対馬MITとのMT ローカリゼーションディレクションディレクション取り組み紹介			チームビルディングのためのコーチングセッション			SHMT用事前カードゲーム体験		ステークホルダーミーティング 部活動成果発表会 しまんとのわビジネス研修取り組み紹介	
今年度で6事業者（農3、飲3）が新たに認証取得			大浜農園	だはず農園(仮)			さんだ農園WS					
			宿ガイドライン作成									
								つどつといこ	月虹農園	しあわせこいこい	ココメーオ	
			旬家ばんちゃんWS									
			海洋プラ削減ステークホルダーMT									
			キエーロPRおよび販売									
			たんぼ部									
			大ぶつ市 2回	大ぶつ市 2回	大ぶつ市部 大ぶつ市			大ぶつ市	大ぶつ市			

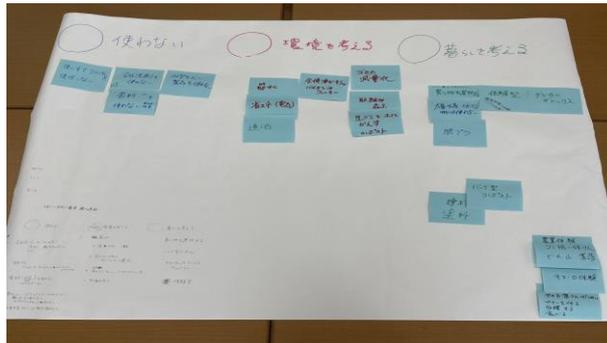
チャレンジ

- 1) 新ガイドライン
- 2) 大ぶつ市
- 3) ステークホルダーミーティング

1)新ガイドライン

コラコラ認証の宿事業部門に新たなガイドラインを作成するため、5人の宿事業者とともに4回のミーティング（オンライン3回+リアル1回）を通して、ガイドラインをまとめた。

- 農と飲食のガイドラインを作った経験が、新たなガイドライン作成に生かされ、4回のミーティングで完成することができた。
- 5組の宿事業者が今後認証事業者として誕生予定。

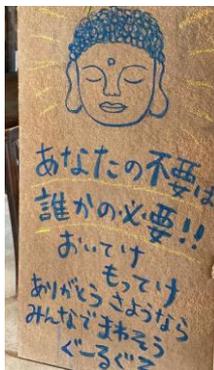


	A	B	C	D	E	F
2		使わない				
3	レベル1	①使い捨てアメニティを提供しない				
4	レベル2	②合成洗剤を使わない				
5	レベル3	③化学繊維製品を使わない				
6						
7						
8		環境を考える				
9	レベル1	④省エネ、節水				
10	レベル2	⑤生ごみコンポストの設置				
11	レベル3	⑥合併浄化槽の設置もしくは下水道への接続				
12						
13						
14		暮らしを考える				
15	レベル1	⑦取り組みの表示				
16	レベル2	⑧マイバッグ、マイボトル持参のお願い				
17	レベル3	⑨自然と共にある島の暮らしを提案				

2) 大ぶつ市

不用品を必要な誰かへと循環させる取り組みの「大ぶつ市」を「大ぶつ市部」によって活動の活発化・深化が図られている

- 2019年から開始した活動で、年2回のペースで実施していたが、「大ぶつ市部」結成により、2022年度は7回開催。
- 場所も環境省の施設や市のこどもセンター、新市庁舎など、関係機関を巻き込んでの開催ができ、ステークホルダーの広がりを見せている。



家庭内の不用品譲渡会にぎわう
石垣の「大ぶつ市」
【石垣】家庭にある不用品の無料譲渡会「大ぶつ市」がこのほど、石垣市役所



広場で開かれた「写真」大仏様のようなおらかな気持ちで「とど付けられた会。市民でつくる「大ぶつ市部石垣島」(下地志織部長)が主催した。
「あなたの不用品は誰かの宝物に。現金の取引はせず、ごみを減らし、ごみの概念もなくす」のがテーマ。多くの家庭から台所用品や小型家電、おもちゃなどが持ち込まれ、希望する来場者に提供された。
子ども2人と訪れた30代の主婦は「使っていない品々を持参した一方、欲しい物も多く見つけ、交換できた」と満足げに語った。
(太田茂通信員)

3) ステークホルダーミーティング

ステークホルダーミーティングを実施するにあたり、話しやすい場を作るためにSDGsカードゲームを活用して、活発な会議を実施した

- SDGs de 地方創生カードゲームというものを活用
- 各部活動メンバー、認証事業者、市役所担当課、環境省の方々などが参加し、とにかく楽しい時間になった
- ゲームを通して対話が深まり、より話しやすい関係性が築けた

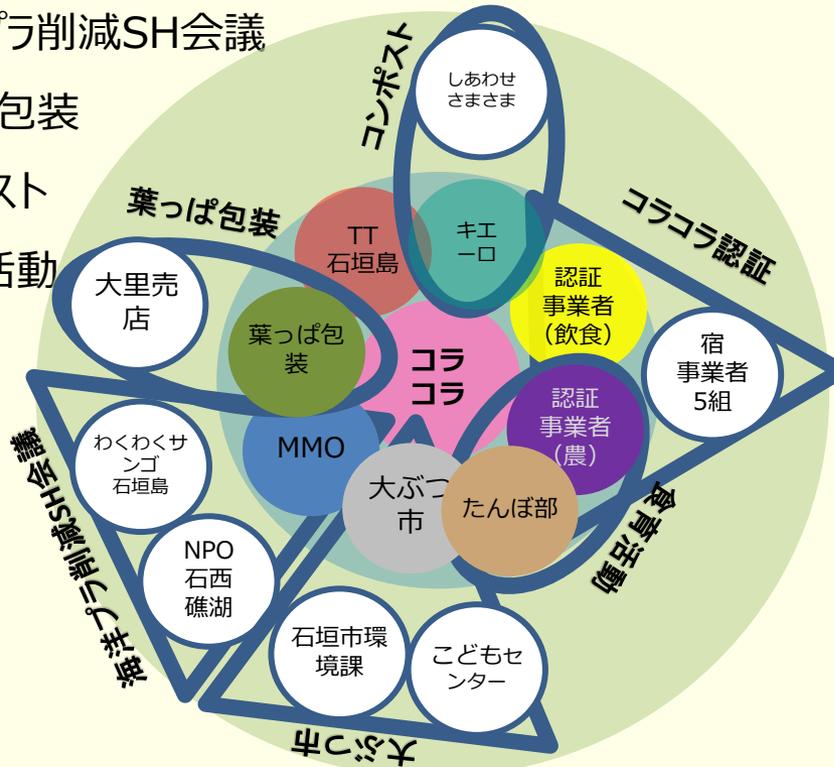


現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- 地域プラットフォームとして以下の部活動などを中心とするグループが構築された。

- コラコラ認証
- 大ぶつ市
- 海洋プラ削減SH会議
- 葉っぱ包装
- コンポスト
- 食育活動



【地域プラットフォームの変化】

- コラコラ認証が認知されることで、付随した活動も広がっていくように感じている。
- 部活動化することで、それぞれのチームがそれぞれに動き出し、広がりを見せている。
- 部活動の広がりにより、コラコラ事務局以外のコアメンバーが徐々に増えてきている。



取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

- 構想の具体的なビジョンがより明確になってきた
- 今後SHミーティングなどにより多くの人達とこの構想を共有して、プレイヤーを増やしていきたい
- 出来ないことを嘆くよりも、少しずつでも出来ていることにフォーカスするようにした
- コラコラを立ち上げ4年目、認証事業者数が確実に増えていることが何よりの成果
- 継続がパワーを持つことを実感している
- 曼荼羅作成により、SHの広りを視覚的にとらえることができた
- 曼荼羅によりコラコラの描くビジョンが明確になってSHに説明がしやすい
- 当初目標を超えた実績数値に、驚きを感じつつ、周知されれば指数関数的に増える予感を持った
- 大手スーパーや包装容器資材取扱業者など、まき込みたいステークホルダーへ話を聞きに行くためのスケジュールと戦略を取り組んでいきたい
- 曼荼羅をSHの人たちとともにブラッシュアップしていきたい
- 実現可能な数値目標かの不安と、一方でこの数字がクリアできないと、地域課題の解決は難しい、という現実
- 目標は高く持ち、それをオープンに語っていくことが大切だと感じている
- 今後巻き込みたいステークホルダーで、全く接触できなかった分野がある
- 新たなつながりを作り、さらなる目標を立てたい

活動における今後の展望

1) マンダラのブラッシュアップ

SHとともに曼荼羅のブラッシュアップを行うことで、ビジョンがより具体化ができ、さらなるSHのまき込みや、事務局体制の強化につなげたい。

2) 認知向上のための発信

アワードやクラウドファンディングなどにチャレンジすることにより認知向上に励み、更なるステークホルダーの巻き込みにつなげたい。

3) 事業のタネのブラッシュアップ

事業のタネのブラッシュアップとともに、事業者の巻き込みや事業化に向けた事前情報の収集、既存の取組の発掘・連携も図りたい。